

Green Brave

10th Anniversary

Powered by **HANKOOK**
driving emotion

Super Taikyu

Japanese Endurance Race

ENEOS

ENEOS スーパー耐久シリーズ 2022

Powered by Hankook 第6戦

スーパー耐久レース in 岡山

#52 埼玉トヨペット GB クラウン RS

2022年10月15日(土) ~ 16日(日)

岡山国際サーキット (岡山県美作市)

■ 2位表彰台を獲得し、ライバルに20ポイント差をつけて最終戦へ ■

第6戦のレース時間は3時間。Gr.1とGr.2に分かれて予選と決勝が行われ、クラウンRSはGr.2に出場しました。

予選日(土曜日)の天候は晴。今シーズン、3勝をあげているクラウンRSには、75kgのウェイトが搭載されており、岡山のコースとの相性が気になるところです。Aドライバーの服部選手は他クラスのクルマに引っかかりながらも5周目に1分39秒822をマーク。#63 RC350に次ぐ2位につけました。Bドライバーの吉田選手は3周目に1分39秒292のトップタイムをマーク。しかし、A、B両ドライバーの合算タイムは0.02秒差でトップタイムにおよばず。ポールポジションを獲得することはできませんでした。しかし、ランキング2位の#39RC350は5位に沈んでおり、クラウンRSに有利な状況。予選後、店舗メカニックが整備とタイヤ交換の練習を行い、初日のスケジュールを終えました。

決勝日(日曜日)の天候も晴。レースは早朝、8時30分から。決勝中、ドライバー交代を伴うピットストップが2回義務付けられているため、チームはクラウンRSの燃費を考慮した上で、吉田→服部→川合とつなぐ3スティント作戦を立案。レースはフォーメーションラップ中に他クラスのマシンがクラッシュしたため、5周目からスタートとなります。吉田選手は2位をキープして1コーナーへ。#63RC350、吉田選手、#15フェアレディZの順でオープニングラップを終了します。4位の#39RC350は先頭集団についていけず徐々に後退。上位3台は等間隔で周回を続けていますが、#15フェアレディZが吉田選手との距離を徐々に縮め、26周目には0.5秒差まで接近します。30周目、吉田選手に仕掛けた#15フェアレディZはヘアピンコーナーでコースアウト。2台は接触しており、吉田選手はピットに戻ります。助手席側の前輪がパンクしていたため、タイヤ4本を交換。さらに給油も行い、服部選手が乗り込みコースへ復帰します。コース上ではFCY(フルコースイエロー)が導入されていましたが、ドライバー識別用の送信機に関するミスがあり、SC(セーフティカー)に切り替わった33周目に再度ピットイン。送信機の交換と短い給油のみでピットアウトします。

SCの隊列に復帰した服部選手は2位。ライバルより1回分ピットインが多い状況ですが、FCYやSCのタイミングに助けられ、トップの#39RC350のすぐ後ろにつけています。38周目からレース再開。服部選手は#39RC350との距離をぐんぐん縮め、41周目にパス。この日、初めてトップに立ちます。服部選手は45周目、#63RC350に抜かれて2位に下がりますが、接触の影響を感じさせないペースで走行。51周目の終わりにピットへ入り、川合選手に交代します。作業は給油のみで、コースに復帰した川合選手の順位は2位。トップは#63RC350(1分差)、3位は#39RC350(43秒差)という順で、#63RC350だけがピットインを残しています。川合選手はタイヤの摩耗に苦しみながらも、力強いペースで走行。逆転に望みをつなげます。87周目の終わりに#63RC350が2回目のピットイン。これにより、川合選手との差は一気に3秒まで縮まります。川合選手はプッシュし、#63RC350との距離を縮めていきますが、コンマ6秒まで接近したところでチェッカー。悔しい2位フィニッシュでしたが、ランキング2位の#39RC350とのポイント差は20に拡大。リードを広げて最終戦(11月26日~27日、鈴鹿)にのぞむことになりました。

決勝結果 (ST-3クラス)

#52 埼玉トヨペット GB クラウン RS

(服部尚貴 / 吉田広樹 / 川合孝汰)

決勝: 2位 (95周、3時間00分45秒507)

予選: 2位 (合算タイム3分19秒114)



DRIVERS VOICE

【服部尚貴選手】

いろいろなことがあったことを考えると、あの位置で争えたのはラッキーでした。タイヤがバーストしただけで足は曲がっていませんでした。接触、発信機交換忘れなどで、余分なピットストップがあったことを考えると、この位置で終われて良かったです。残念ながら幸運の女神が微笑むことはなかったですが、それ以外はラッキーで終わりました。39号車とのポイント差が広がったので、最終戦はだいぶ楽になります。今回のレースはそれが狙いだったので、目標は達成できたと思います。

【吉田広樹選手】

後ろから同じクラスのクルマが迫ってきて、自分はイン側でブレーキング。アウト側に1台分のスペースを残していたつもりでしたが、後ろから飛び込んできて接触してしまいました。結果的にタイヤのバーストで済んだのですが、足が壊れているんじゃないかと思うほど、まともに走れない状況でした。自分がチームに迷惑をかけてしまったのですが、服部さん、孝汰がベストなドライビングをしてくれました。自分のミスは帳消しになっていませんが、チームプレーで助けてもらい、うれしかったです。

【川合孝汰選手】

レースウィークを通してぼくがロングの走行を担当していたので、クルマのバランスはなんとなく予想していました。昨日の練習走行よりも路面の状況が悪く、タイヤのグリップ低下も早かったので、全体的にバランスは厳しかったです。タイヤ無交換で長い時間を走ることは事前にわかっていたのですが、きつかったですね。他のクラスを抜くタイミングで、75kgの重さが影響し、思い切って抜くことができませんでした。ウェイトの重さを考えると、かなりいいレースができたと思います。

MECHANIC VOICE

【東岩槻支店・日下部俊介】

もっとゆったりしているのかなと思っていたのですが、予想以上に忙しいですね。走行を終え、ピットに戻ってきたクルマに給油するのが仕事です。満タンの時は重いので特に疲れますが、先輩の長谷川さんにしっかり指導してもらっているのでバッチリだと思います。ミスがないようにひとつひとつチェックするところは店舗でも役に立つと思いますし、冷静かつ素早く作業をすることが重要だと思います。

ST-3 クラス 決勝結果

順位	車名(車両)	周回数
1位	TRACY SPORTS RC350 TWS(レクサス RC350)	95周
2位	埼玉トヨペット GB クラウン RS(トヨタ クラウン)	95周
3位	エアバスター WINMAX RC350 55 ガレージ TWS(レクサス RC350)	95周
4位	raffinee 日産メカニックチャレンジ Z(日産 フェアレディ Z)	94周
リタイア	岡部自動車フェアレディ Z34(日産 フェアレディ Z)	29周

出走5台

ST-3 クラス ポイントランキング

順位	ゼッケン	チーム名	ポイント
1位	52	埼玉トヨペット Green Brave	134
2位	39	TRACY SPORTS with DELTA	114
3位	311	FKS team fukushima	76
4位	63	TRACY SPORTS	67
5位	15	OKABEJIDOSHA motorsport	41
6位	25	TEAM ZEROONE	31

PARTNERS



赤城車体工業株式会社



EMG ルブリカンツ合同会社



株式会社エヌ・ティ・コーポレーション



株式会社 FM NACK5



株式会社 岡崎巧芸



株式会社カーグラス・JP



株式会社カロッツェリアジャパン



埼玉群スリーボンド株式会社



株式会社三和広告社



JU 埼玉オートオークション株式会社



株式会社西武ライオンズ



株式会社タンエイシャホイールサプライ



株式会社デンソーソリューション



株式会社ドーム



トヨタホーム東京株式会社



富士フイルムビジネスソリューションジャパン株式会社



株式会社プロモーション



株式会社プロモーション



丸和工業株式会社



Mechanix Wear LLC